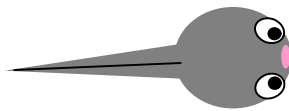


何者なんだ？



「シュレーゲルアオガエル」

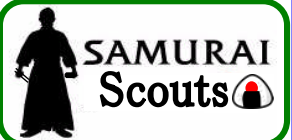
5月10日の田植えの際に、ボーイ隊長が発見した、マシュマロ状のカエルの卵について、数名の関係者(この人たちも物好きと言える)から、卵の親である『シュレーゲルアオガエル』は、何者だ？ アマガエルじゃないのか？などの声を頂き、今回は『シュレーゲルアオガエル』についての研究報告である。自然が豊富な東北と九州出身(田舎者とも言う)の、ボーイ隊長とM副長も緑色のカエル(モリアオガエルは除く)は、アマガエルであり、その他に外人さんみたいな名前のカエルがいよいよとは、これっぽっちも考えていなかった。カエルの世界も奥が深いの一。我々物好きもまだまだ修行が足りないようである。

『シュレーゲルアオガエル 日本産爬虫両生類標準和名(1859年江戸後期 安政の大獄のころ)』なるハイカラな名前のカエルは、アマガエル科に属し、オランダのライデン王立自然史博物館館長だったヘルマン・シュレーゲル(ドイツ人)が、「日本動物誌」を執筆したことを記念され命名されたそうだ。でも、このハイカラな名前が付けられるまでに、日本では、「アオガエル」とか、何らかの呼び名があったはずだ。外国の人に、自国の動植物の名前を付けられたものを、そのまま使用するとは残念である。原団では、このカエルの名前を、卵を発見したボーイ隊長の観察力を賞賛して 牛久産爬虫両生類標準和名とし、「**弥栄(いやさか)ガエル**」と呼ぶことにする。* 弥栄(いやさか)とは、ボーイスカウトにおける祝声で「ますます栄える」、「万歳」、「おめでとう」などと言う意味である。日本の固有種で、本州・四国・九州とその周囲の島に分布するが、対馬にはいないそうで、田んぼや森林等に生息し、繁殖期には田んぼや湖沼に集まる。繁殖期はおもに4月から6月ごろ。繁殖期になるとオスは水辺の岸辺で鳴く。鳴き声はニホンアマガエルよりも小さくて高く、「コロロ・コロロ…」とかキリリリリ・カララララ…」と聞こえる。卵はマシュロみたいにプヨプヨのプニョプニョで、畦などの水辺の岸辺に、泡で包まれた3~10cmほどの卵塊を産卵する。泡の中には200~300個ほどの卵が入っている。孵化したオタマジャクシは雨で泡が溶けるとともに水中へ流れ落ち、水中生活を始める。これらのカエルは、どうも異常気象を呼び寄せる「ゆふ将軍」の子分らしい？六斗の森や刈谷自治会館でキャンプの際に、いつも草むらで「ケロ・ケロ」鳴いている。親分に合図を送っているのであろう。そして、この間はスカウトたちにカエルのマスコットを配っていた。ところで、「ケロヨン(古いー)」は、どっちがモデルなんだろう？



M副長新聞

カエルは、ゆふ将軍の子分！「あると思います！」



2009.6.4
第33号

卵の比較



シュレーゲルアオガエル



ニホンアマガエル

シュレーゲルの卵は、触ってみるとメレンゲみたいなマシュマロのような、弾力のあるプヨプヨのプニョプニョである。アマガエルは、寒天かゼリー状の管に入っている。

オタマジャクシの比較



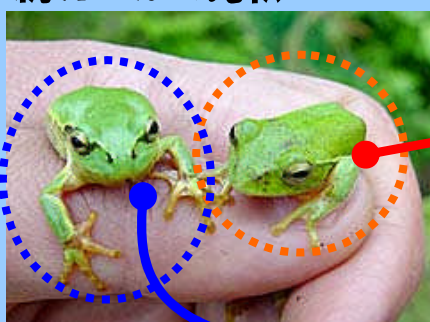
シュレーゲルアオガエル



ニホンアマガエル

オタマジャクシでは、シュレーゲルとアマガエルとの違いが良く分らない。

親ガエルの比較



シュレーゲルアオガエル



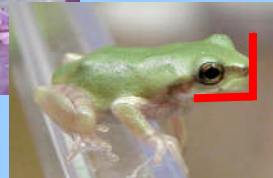
【見分け方】 シュレーゲルは口先が鋭角に尖り、アマガエルは、口先が垂直に見える。とあるが、両方捕まえて比べれば見分けられそうだが分かりづらい。簡単な方法は、目の前後に黒い線があるのがアマガエルと判断すれば良いらしいぞ。一見かわいらしく感じるニホンアマガエルだが、皮膚から出る粘液には刺激性の物質が含まれているので、触ったあとの手で目や傷口を触らないように注意した方が良いでしょう。



ニホンアマガエル



シュレーゲルアオガエル



黒い線

右側がシュレーゲルアオガエルで、左側がニホンアマガエル。違いが分かるかなー！